



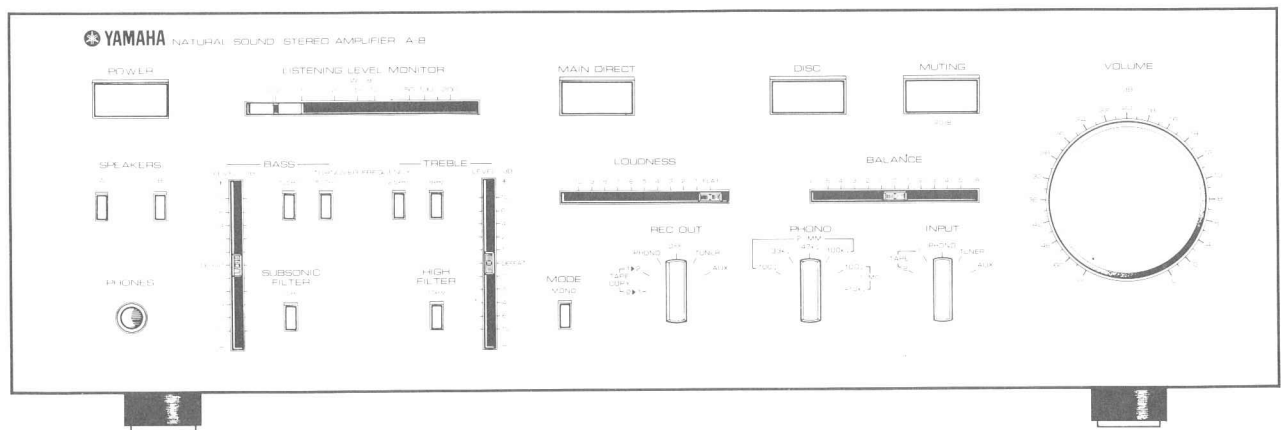
YAMAHA

NATURAL SOUND

STEREO INTEGRATED AMPLIFIER

A-8

取扱説明書



このたびは、ヤマハ・ステレオプリメインアンプA-8をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

A-8の優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

また、お読みになった後、必ず保存してください。

(万一、ご使用中にわからない事や、不具合が生じたとき、きつとお役に立ちます。)

■目次

特長	1
ご使用になる前に次のことにご注意ください	2
接続図/接続上のご注意	6
各部の名称と機能/付属品	6
ブロックダイアグラム	11
参考仕様	12
故障と思われるときには	13
サービスのご依頼について	14

■特長

- スーパーハイ f_T トランジスターとリニアトランスファーサーキットにより、スイッチング歪やクロスオーバー歪を押えたハイパワーアンプ。
スーパーローノイズFETを使用し、ピュアカレントサーボを施した完全上下対称プッシュプル回路の高S/N MCヘッドアンプ。
新開発バイアスコントロール回路により、より完成された差動2段コンプリメンタリーSEPP DCアンプと2段構成のピュアカレントサーボに支えられ、よりワイドなダイナミックレンジと低歪率を実現したイコライザー回路など、高度な回路設計技術に基づいたオーバーオールに完成度の高いプリメインアンプです。
- 小型・高効率と同時に電源安定化をはかったフェーズアングルコントロールのX電源を採用。高い信頼性と十分なキャパシティーで150W+150Wのハイパワーアンプを駆動します。
- ループレス構造銅メッキシャーシにより、シャーシ循環電流をシャットアウト。プラスチックケミコンやチツ化

タンタル抵抗をはじめとするハイクオリティーパーツを使用した音質重視設計です。

- カートリッジに対する最適負荷インピーダンスが選べるPHONOセレクターを装備。カートリッジの特性をフルに引き出します。
- ターンオーバー周波数切り換え型トーンコントロールや音量の基準を自由に決められるコンティニューアス・ラウドネスコントロールなどの豊富なコントロール機能を持ちながら、ワンタッチで信号経路をシンプルにするMAIN DIRECTスイッチやDISCスイッチなどWire with Gainの設計思想が息づいています。
- YAMAHA独自のREC OUTセレクターにより、再生中のプログラムとは関係なく別のプログラムを録音したり、テープのダビングをするなどのダブルアクションが可能です。
- リスニングレベルモニターを内蔵。セットする出力値でLEDが点灯し、リスニングレベルの確認ができます。

ご使用になる前に次のことにご注意ください



設置場所について

次のような場所で長時間ご使用になりますと音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や暖房器具のそばなど極端に暑い場所（周囲温度35℃以上）または、温度の特に低い場所（周囲温度-5℃以下）では製品の機能を維持できない場合がありますので教えてください。
- 湿度の多い場所（湿度90%以上）では金属部品にサビが生じることがあります。
- ホコリの多い場所ではスイッチ等がよごれ、接触不良や雑音の発生等の原因になり性能をそこなうこととなります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。
- その他、振動の多い場所や磁気の強い場所（テレビやモーター）の近くには置かないでください。誘導ハムをひろう原因となります。



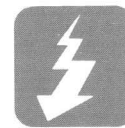
水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。この状態で電気を入れた場合、感電の恐れもあり危険です。また性能もそこなうこととなりますのでご注意ください。



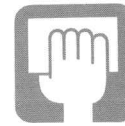
ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



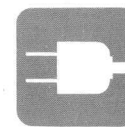
落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときには、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。



セットのお手入れには

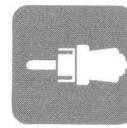
セットをベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。（変色、ヨゴレの原因となります。）お手入れは、必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。



電源コードも大切

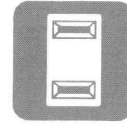
コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜く時は、コードを引っぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。本機は国内仕様です。電源プラグは必ず AC 100Vのコンセントに接続してください。

※大出力で本機をご使用の際はコンセントの発熱やブレーカーが切れることがあるので、必ず専用コンセントを用いてください。



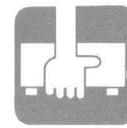
入出コードを抜き差しする場合

クリックノイズによるスピーカーの破損を防止するため、接続コードの抜き差しは、本機の電源スイッチを切ってからおこなってください。



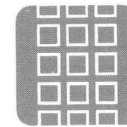
予備電源コンセント

背面パネルのAC OUTLETSの容量はSWITCHEDが100W(TOTAL)、UNSWITCHEDが200Wとなっております。接続する機器の消費電力を確かめて容量以上の消費電力を持った機器は絶対に接続しないでください。



セットの移動

セットを移動する場合は、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードをはずしてから動かしてください。



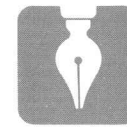
セット上面の通風孔をふさがない

放熱を防げないため、セット上面の通風孔のビニールの敷き物などを絶対に置かないでください。



もう一度調べてください

故障かな？と思ったら、まず13ページの“故障と思われるときは”をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。



保管してください

この取扱説明書をお読みにになりました後も、保証書とともに大切に保管してください。

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

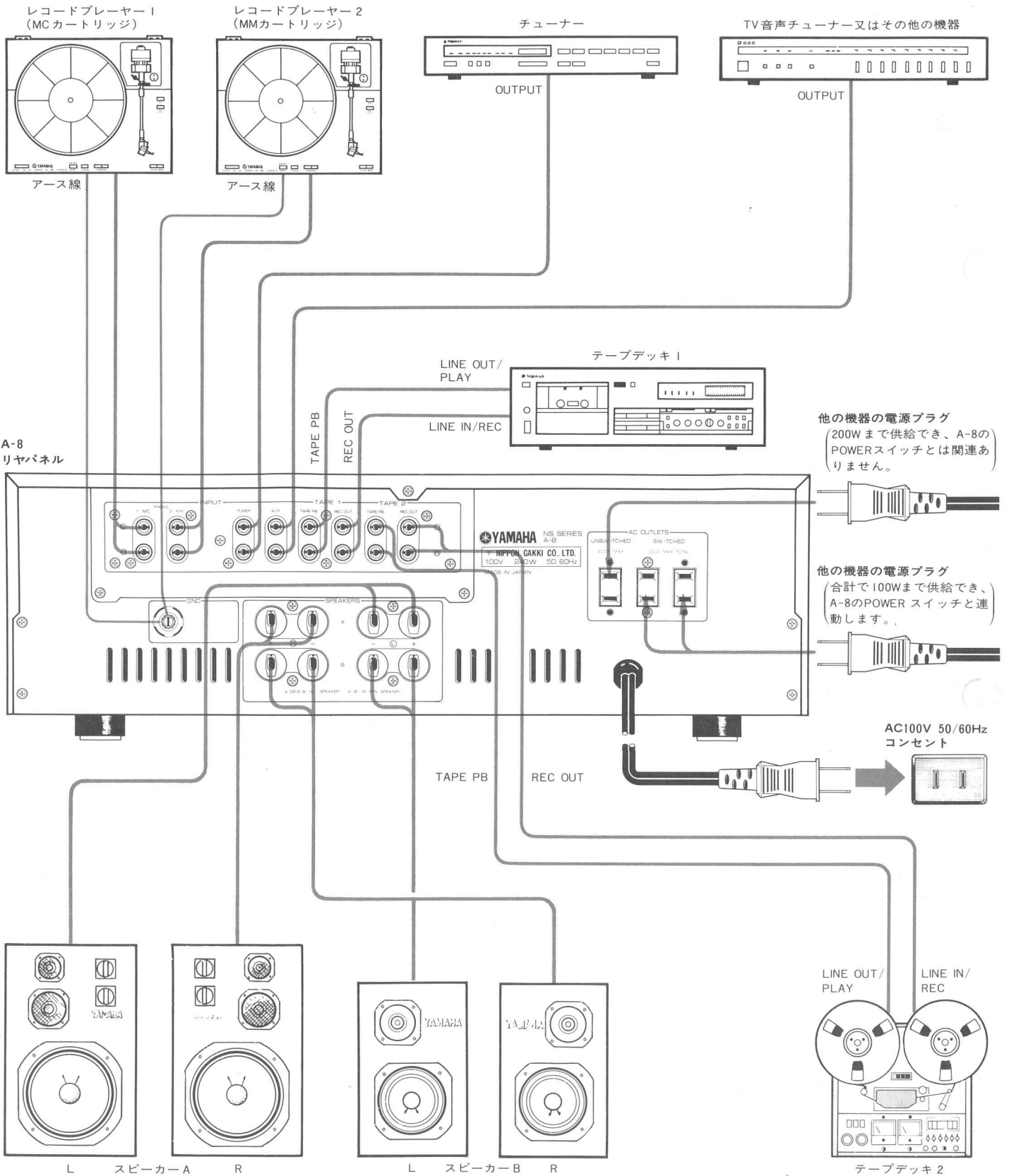
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

接続図/接続上のご注意

■接続図

※接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。



他の機器の電源プラグ
(200Wまで供給でき、A-8の
POWERスイッチとは関連あ
りません。)

他の機器の電源プラグ
(合計で100Wまで供給でき、
A-8のPOWERスイッチと連
動します。)

AC100V 50/60Hz
コンセント

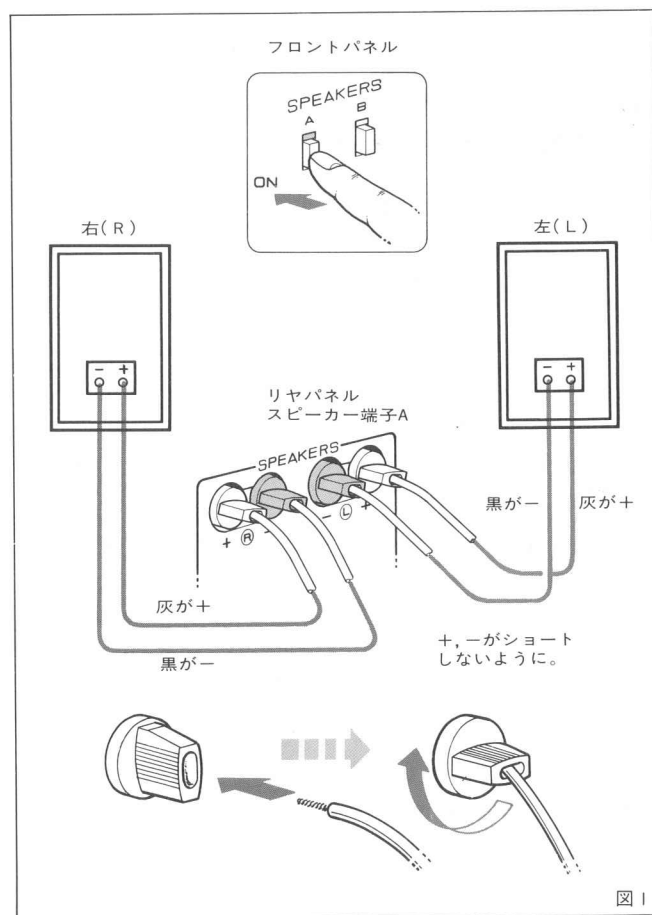
■スピーカーシステムの接続

2組のスピーカーシステムが接続できます。フロントパネルのSPEAKERS (A, B) スイッチでA, B単独にも、2組同時に使うこともできます。

※ただし、フルパワー近くで長時間にわたってご使用になる場合は、次のように、使用スピーカーシステムのインピーダンスにご注意ください。

※A, B単独使用の場合は、スピーカーのインピーダンスが4Ω~16Ωのものを、2組同時使用の場合は各インピーダンスが8Ω以上のものを使用してください。

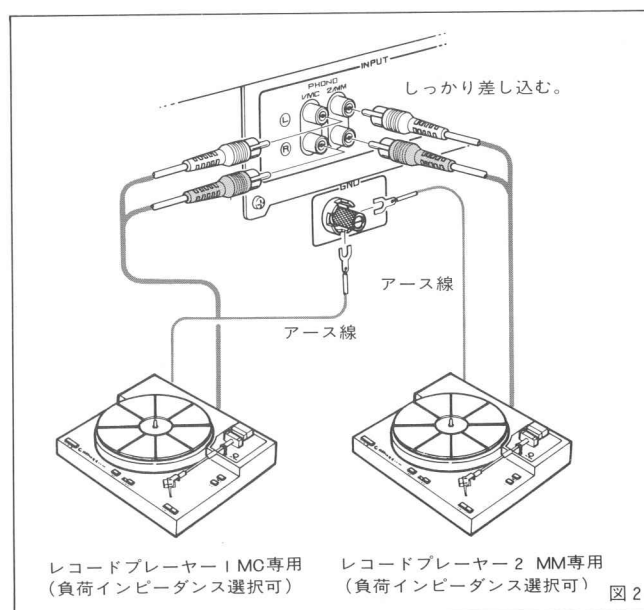
1. スピーカーシステムの左右とSPEAKERS端子Aの①②、および極性+, - (灰が+, 黒が-)を確認して接続します。間違えて接続しますと、音像が定位せず、低音のそこなわれた不自然な再生音になってしまいます。
2. 接続は図のようにスピーカーコードの芯線部分をさし込み、つまみを時計方向にまわしてロックします。また、スピーカーコードはできるだけ短かく、左右の長さを等しく配線してください。
3. もう一方のSPEAKERS 端子Bにも同様にして、もう1組のスピーカーシステムが接続できます。



■レコードプレーヤーの接続

1. PHONO 1/MC端子はMC型 カートリッジ専用端子です。MC型カートリッジをご使用の際は、プレーヤーの出力コードをPHONO 1/MC端子へ接続します。また、フロントパネルのPHONO SELECTORによって、カートリッジの負荷インピーダンスを100Ωと10kΩに選択することができます。
2. PHONO 2/MM端子はMM型(IM, MI型など) カートリッジ専用端子です。MM型カートリッジをご使用の際は、プレーヤーの出力コードをPHONO 2/MM端子へ接続します。負荷インピーダンスはカートリッジに応じて選択することができます。

※プレーヤーの出力コードのL, Rを確認しPHONO 1/MC、2/MM端子に接続し、アース線をGND端子に接続します。アース線を接続してハムなどの雑音が出る場合は、アース線ははずすと雑音が止まることがあります。



■テープデッキの接続

1. テープデッキのLINE IN (録音入力) 端子と、TAPE1のREC OUT端子のL, Rを確認して接続します。
次に、テープデッキのLINE OUT (再生出力) 端子とTAPE1のTAPE PB端子を同様に接続します。
2. TAPE 2端子にも同様にもう1台のテープデッキを接続できます。

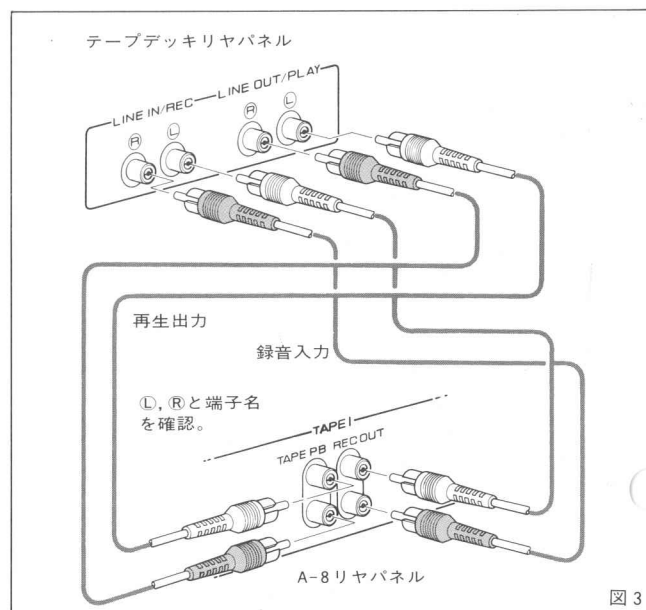


図 3

■チューナーの接続

チューナーの出力端子と本機のTUNER端子のL, Rを確認し接続コードで接続します。

■AUX端子への接続

AUX (補助入力) 端子には、FM/AMチューナーやテレビの音声チューナーをはじめ、8トラックテーププレーヤーなどが接続できます。

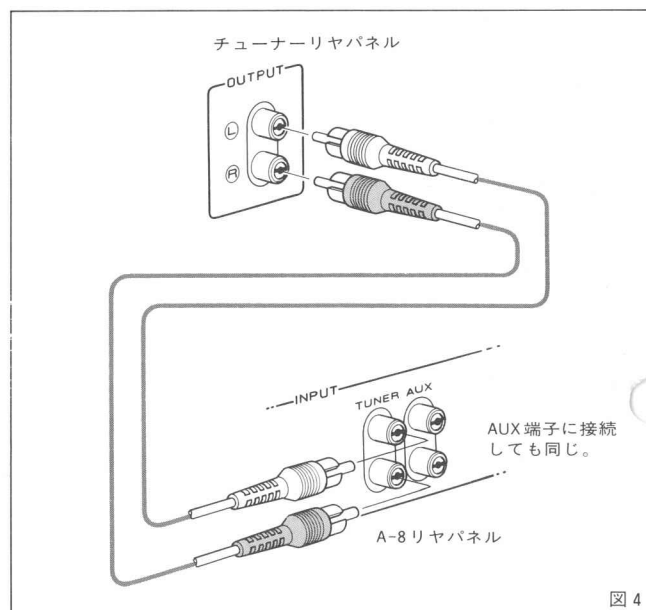


図 4

■AC OUTLETS(予備電源コンセント)への接続

1. 消費電力が100W以下の機器の電源コードを本機のAC OUTLETSのSWITCHEDに接続し、電源スイッチをONにしておきますと、本機の電源スイッチと連動させて電源のON, OFFができます。

※SWITCHEDのコンセントは両方で100Wまでです。接続機器の消費電力を確認し、必ず100W以下で使用してください。

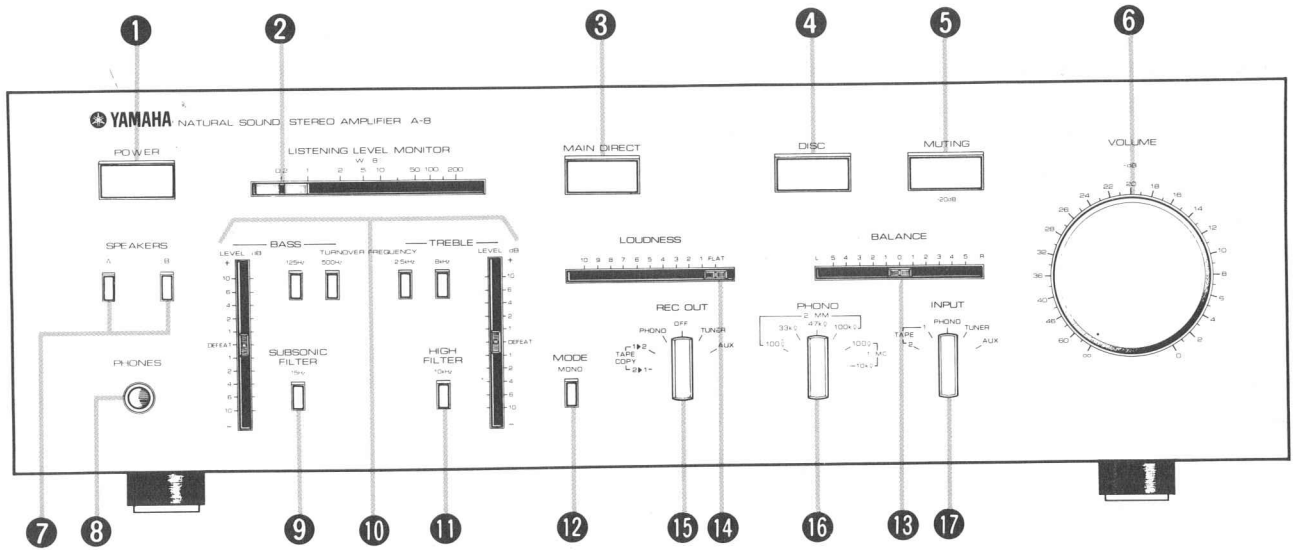
2. UNSWITCHEDには消費電力200W以下の機器が接続でき、本機の電源スイッチとは関係ありません。

■その他の注意

1. 本機の電源コードの近くにチューナーのAMアンテナ (ループアンテナあるいはバーアンテナ等) が接近するようなセッティングは避けてください。ハムなどのノイズの原因になります。
2. 接続コード間での悪影響防止のため、各コードはできるだけ交わらないよう離してください。
3. 本機は、放熱を妨げない場所にセットしてください。

各部の名称と機能/付属品

■フロントパネル



① POWER (電源スイッチ)

このボタンを押すと電源が入り、ボタンの上部に「赤」のインジケータが点灯します。さらにもう一度押すと電源が切れ、消灯します。

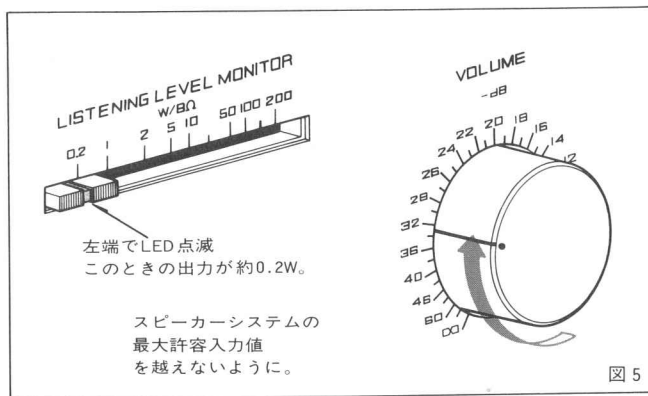
※ボタンを押して数秒間は、電源を入れたときのポップノイズを取り除くためのミュートングリレーが働きますので音は出ません。

※電源を入れるときは、必ずボリュームのつまみを最小の位置(反時計方向一杯)に回して、スピーカーから不用意に大きな音が出ないようにご注意ください。

② LISTENING LEVEL MONITOR

(リスニングレベルモニター)

つまみ中央にLEDが点滅し、Lch(左), Rch(右)のリスニングレベル(出力)の大きい方のピークをワット(W/8Ω)数で表示します。



つまみを左端にしておき、VOLUME ⑥ で音量を上げていくと、LEDが点滅し始めます。この時のLchあるいはRchの出力が約0.2Wです。逆に、音量を上げておき

つまみを右にスライドさせるとそのときの出力がわかります。VOLUME と合わせて、出力レベルの監視や設定にお役立てください。

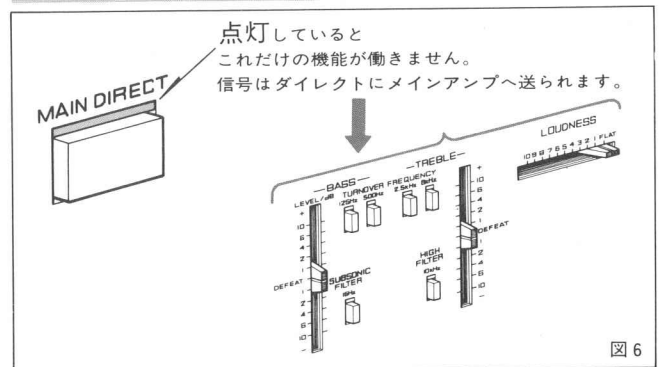
③ MAIN DIRECT (メインダイレクトスイッチ)

スイッチONでボタンの上部に「緑」のインジケータが点灯し、次の機能

- BASS, TREBLE および各ターンオーバー周波数スイッチ ⑩
- SUBSONIC, HIGHの各フィルター ⑨, ⑪
- LOUDNESS ⑭

がバイパスされPHONO端子からの信号経路はイコライザーアンプとハイゲインDCパワーアンプのみの極めてシンプルな回路構成となり、音質劣下の原因となりやすいトーンコントロールアンプやスイッチ類を完全にパスするため、特性もよりフラットになりクオリティの高い再生音を得ることができます。

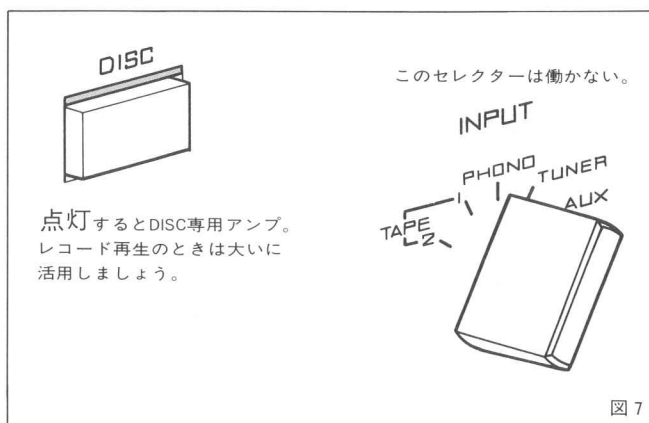
※スイッチONの状態ではトーンコントロールやフィルターの機能は働きません。また、トーンコントロールや各フィルターのインジケータも点灯しません。



④ DISC (ディスクスイッチ)

スイッチONでボタンの上部に“緑”のインジケータが点灯し、下のINPUTセレクター⑬に関係なくレコード(DISC)再生に切り換わります。つまり、スイッチONで本機はディスク専用アンプとなり、MAIN DIRECTスイッチ③との併用で、さらにクオリティの高いレコード再生ができることになります。

※このスイッチONでもREC OUTセレクター⑮は働きますので、テープへの録音やダビング(複写)は行なえます。



⑤ MUTING (ミュートスイッチ)

このボタンを押すことによりVOLUME(ボリューム)つまみを回さずにアンプのゲイン(利得)を20dB(1/10)下げることができます。各種スイッチ操作時やレコード面に針を降ろす時など一時的に音量を小さくする場合に便利です。小音量で聞く際には、このスイッチを利用してください。

※ボタンを押した(ON/赤インジケータ点灯)まま、VOLUMEつまみで音量をあげた後ボタンのスイッチをもう一度押しますとスピーカーに過大な入力が入り、スピーカーを破損する場合がありますのでご注意ください。

⑥ VOLUME (音量調整つまみ)

全体の音量を調整するつまみで右に回すほど音量が大きくなります。

※電源スイッチをはじめ各スイッチを切り換えるときや、レコード面上に針先を降ろすときなどは必ず音量を最小にして行うようにしてください。

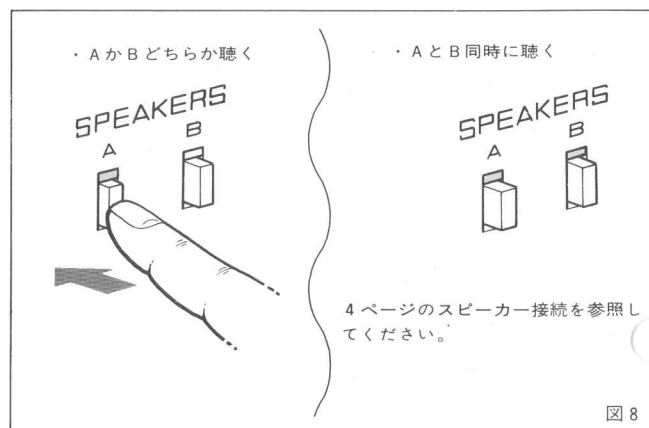
⑦ SPEAKERS (スピーカー切り換えスイッチ)

リアパネル側に接続されたスピーカーシステム(A, B)を選択するスイッチです。

Aのボタンを押すと、A端子に接続されたスピーカーシステムが“ON”となり、ボタン上部に“緑”のインジケータが点灯します。

Bのボタンも同様におこなうことができます。

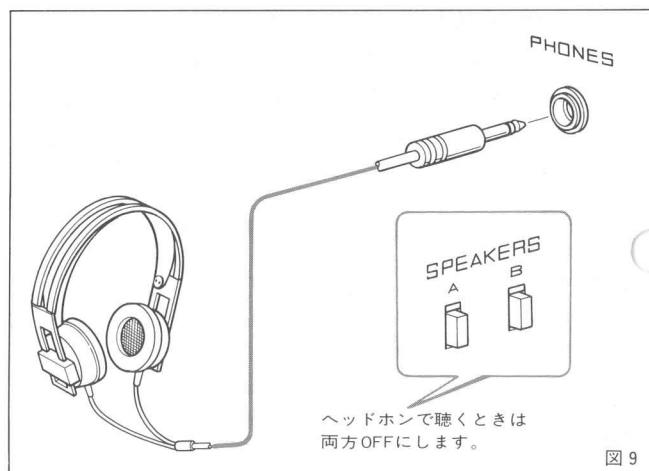
さらにもう一度押すと、スピーカーシステムは“OFF”となりランプは消えます。また、A, B両方“ON”になるとA+Bで聴くことができます。



⑧ PHONES (ヘッドホンジャック)

ヘッドホンのプラグを差し込みます。ヘッドホンだけでお聴きになるときはSPEAKERSスイッチ⑦A, B両方OFFにしてください。

ヘッドホンはL, Rを確認して正しくお使いください。



⑨ SUBSONIC FILTER (サブソニックフィルター)

スイッチを押しますと、ボタン上部に“緑”のインジケータが点灯します。通常は音楽再生に必要な15Hz以下の可聴範囲外の超低域ノイズをカットし、レコード盤のそりなどによるスピーカーのコーン紙のフラつきを防止します。図11の特性図を参照してください。

※MAIN DIRECTスイッチがONのときは働きません。

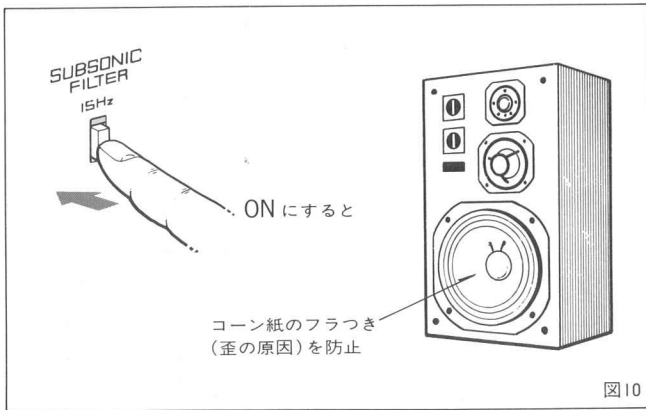


図10

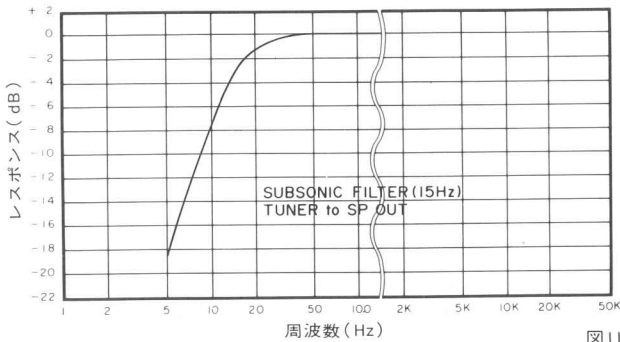


図11

10 BASS(低音調整)、TREBLE(高音調整)

低音は、BASSスライドつまミとターンオーバー周波数 (TURNOVER FREQUENCY) 125Hz, 500Hzの選択によって調整します。(選択したボタンの上部に“緑”のインジケーターが点灯します。)

スライドつまミがDEFEAT位置でフラット、上に上げるほど低音が強調され、下げるほど減衰されます。

高音調整についても同様で、スライドつまミとターンオーバー周波数 2.5kHz, 8kHzの選択によって行ないます。

(選択したボタンの上部に“緑”のインジケーターが点灯します。)

※MAIN DIRECTスイッチがONのときは働きません。

※ターンオーバー周波数を切り換えたときの特性の違いをBASS, TREBLEについて載せておきます。

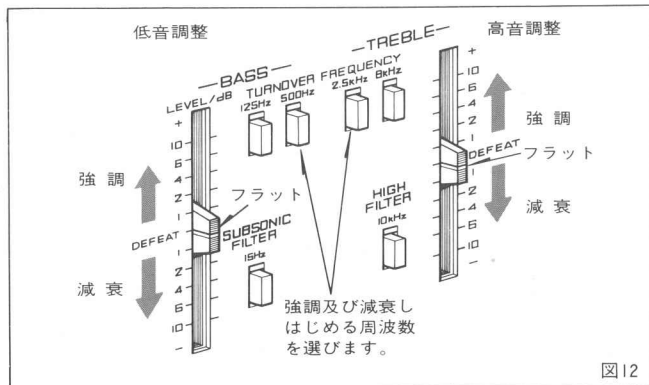


図12

●BASSコントロール特性

ターンオーバー周波数 125Hz

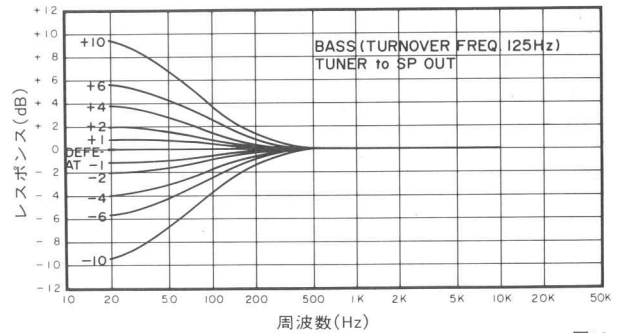


図13

ターンオーバー周波数 500Hz

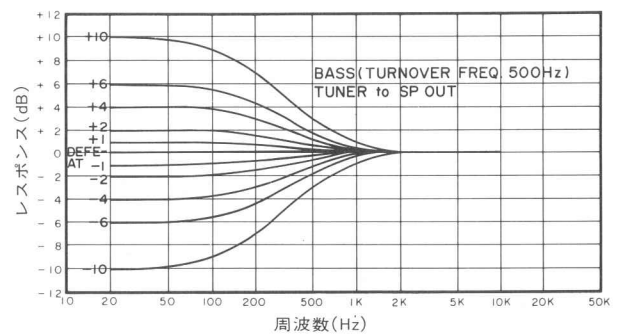


図14

●TREBLEコントロール特性

ターンオーバー周波数 2.5kHz

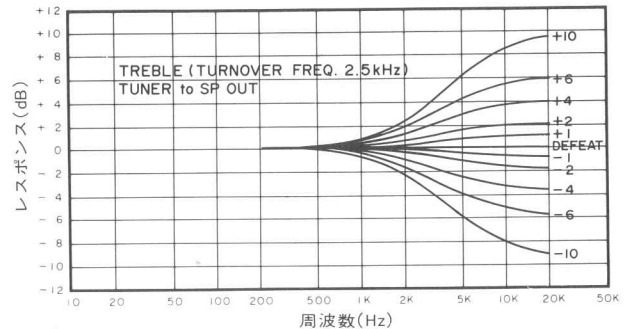


図15

ターンオーバー周波数 8kHz

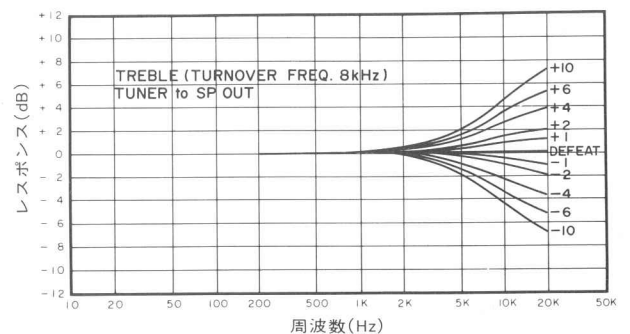


図16

⑪ HIGH FILTER (ハイフィルター)

スイッチを押しますと、ボタンの上部に「緑」のインジケータが点灯し、レコードのスクラッチノイズなど、10 kHz以上の高域ノイズを取り除くことができます。必要な信号への影響はありませんが、通常は OFF にしておいてください。特性図を参照してください。

※MAIN DIRECT スイッチがONのときは働きません。

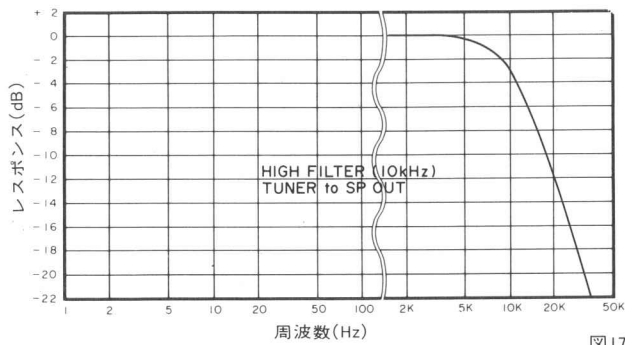


図17

⑫ MODE (モード切り換えスイッチ)

このボタンを押してボタン上部に「赤」のインジケータが点灯すればモノラル再生。再度押して、インジケータが消えたらステレオ再生となります。

⑬ BALANCE (バランスコントロール)

このスライドボリュームを右側(R)にスライドさせると左側の音が小さくなり、左側(L)にスライドさせると右側の音が小さくなります。接続された左右のスピーカーの能率の違いや、家具などの配置によっても影響を受けます。またプログラムソース自体に片寄りがある場合など、バランスつまみで左右それぞれの音量を調整してください。また、バランスをとるにはMODEスイッチを「MONO」にして左右スピーカーの音が中心から聞こえるようにBALANCEつまみで調整した後、MODEスイッチをOFFに戻します。

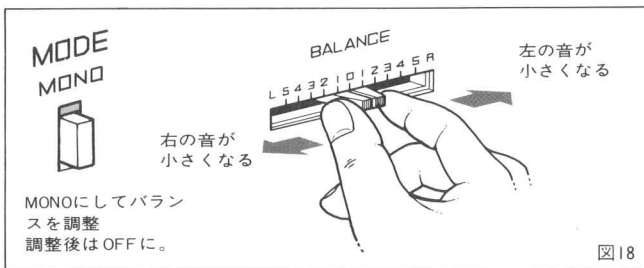


図18

⑭ LOUDNESS (ラウドネスコントロール)

人間の聴覚には、音量が小さくなるにつれて低音と高音が聞こえにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスです。一般のラウドネスは、ボリュームの回転角度により低域と高域が強調されるため、

スピーカーの能率や音量、部屋の状態によっては不自然な補正となる場合がありますが、本機ではコンティニューアスラウドネスを採用し、音量の基準を自分で決められるため、自分の聴く音場と音量に従って多種多様なラウドネス効果を得ることができます。

※MAIN DIRECT スイッチがONのときは働きません。

●操作方法

1. スライドつまみをFLAT(右端) にしておき、ご自分の再生装置の最適な音量になるまでVOLUME ⑥ で音量を上げてみます。この位置がラウドネスの基準の状態となります。
2. スライドつまみを左にスライドさせていくと音量が下がりますので、お聴きになる音量まで下げていきます。それに従いラウドネス効果は強調されていきます。
3. これでご自分のお聴きになる音量に応じたラウドネス補正ができたこととなります。特性は下のように変化していきます。

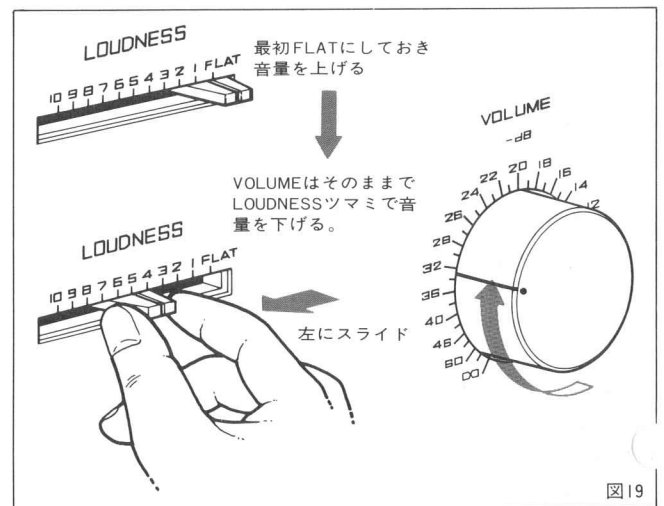


図19

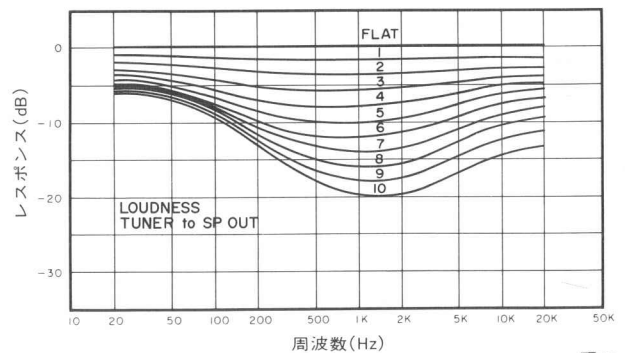


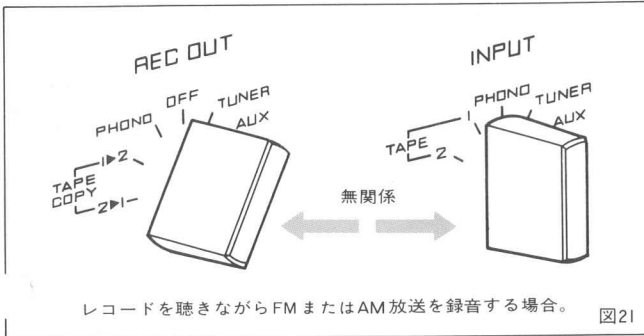
図20

⑮ REC OUT (録音出力セクター)

接続されているテープデッキに録音するためのプログラムソースを選択します。INPUT セクター⑰に関係なく、接続されているプログラムソースを選んで録音する

ことができます。

例えば、レコードを聴きながらREC OUT セレクターをTUNERにしてFM放送を録音したり、テープのダビング(複写)をするなどのダブルアクションができます。OFFの位置では録音できません。



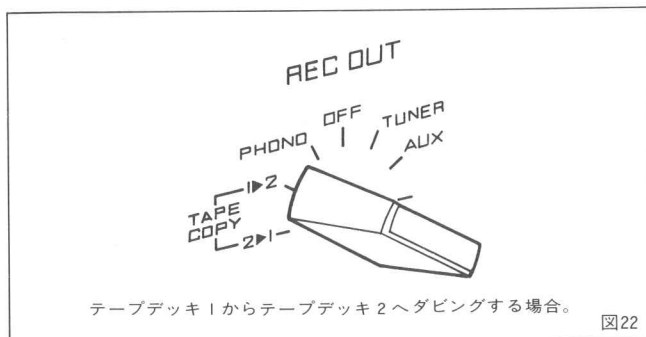
●ダブルアクションの主な操作例

INPUT セレクター	REC OUT セレクター	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聴きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながらレコードを録音できます。

●テープのダビング(複写)

リヤパネルTAPPE 1 端子に接続のテープデッキ1から、TAPPE 2 端子に接続のテープデッキ2へダビングする場合
1.REC OUTセレクターをTAPE COPY 1▶2にします。
2.テープデッキ1を再生、テープデッキ2を録音状態にします。

テープデッキ2からテープデッキ1へのダビングも同様にして、REC OUTセレクターをTAPE COPY 2▶1にし、上記2の録音と再生を逆の状態にします。

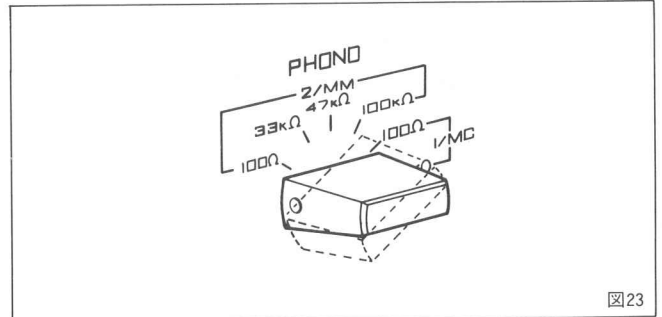


⑩PHONO (フォノセレクター)

接続されている2台のレコードプレーヤーの選択と、カートリッジの負荷インピーダンスを切り換えます。

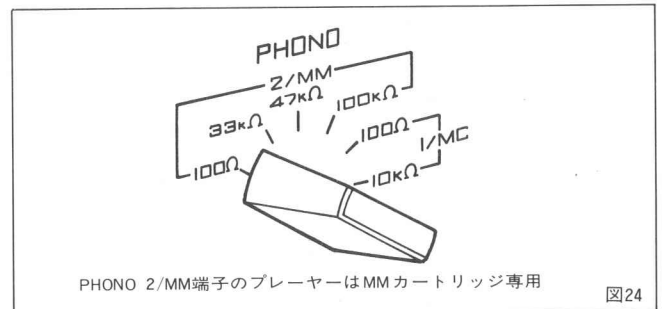
●PHONO 1/MC端子に接続のプレーヤーは

MCカートリッジ専用となります。100Ωポジションが一般的ですが本機では10kΩポジションにて従来と異なる音質も楽しめます。お好みの音にセットしてください。



●PHONO2/MM端子に接続のプレーヤーは

MM型(IM, MI型)カートリッジ専用となり、カートリッジメーカー指定の最適負荷インピーダンス値(あるいは近い値)に合った値を100Ω, 33kΩ, 47kΩ, 100kΩの中から選んでください。また、負荷インピーダンスを変えると周波数特性が多少変化しますので、お好みの音にセットすることもできます。

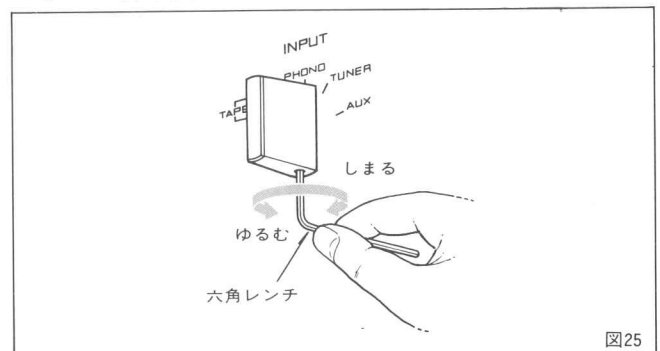


⑪INPUT (入力セレクター)

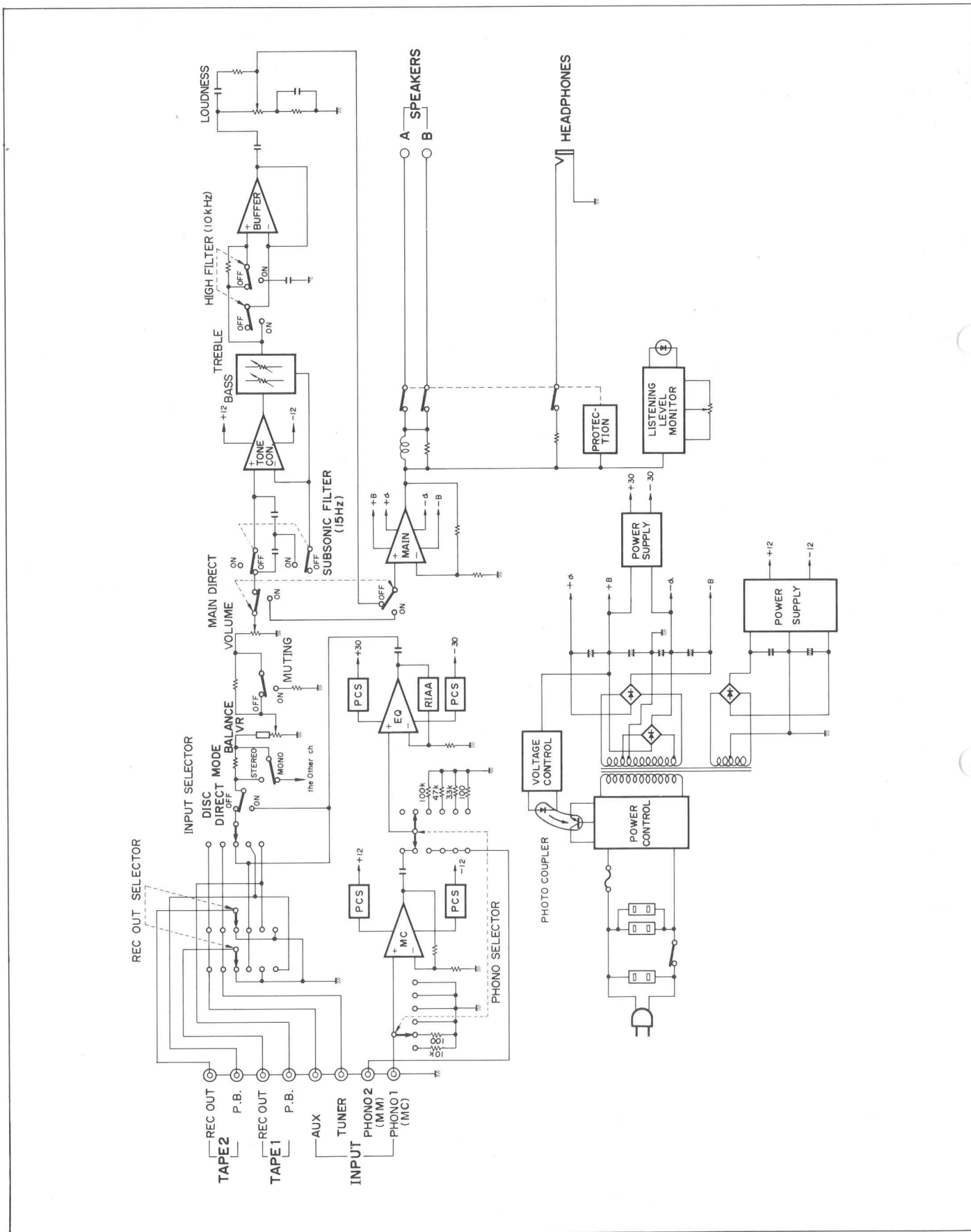
リヤパネルのINPUT端子に接続されているプログラムソースを選択します。お聴きになりたいプログラムソースに合わせて切り換えてください。

■付属の六角レンチについて

六角レンチは、REC OUT, PHONOおよびINPUTの各セレクターツマミの位置がずれたり、ゆるんできたときこれを固定する際に使用します。



ブロックダイアグラム



参考仕様

定格出力

20Hz~20kHz、0.003%、8Ω負荷……………150W+150W
1kHz、0.003%、8Ω負荷……………150W+150W

パワーバンド幅(0.02%、75W/8Ω)……………10Hz~100kHz

ダンピングファクター(1kHz、8Ω)……………200

入力感度/インピーダンス

PHONO MC……………100μV/100Ω、10kΩ
MM……………2.5mV/100Ω、33kΩ、47kΩ、100kΩ

AUX、TAPE、TUNER……………150mV/47kΩ

最大許容入力(0.01%、1kHz)

PHONO MC……………11mV
MM……………280mV

出力電圧/出カインピーダンス(1kHz)

REC OUT……………150mV/560Ω

ヘッドホン出力/負荷インピーダンス(0.01%)…84mW/8Ω

周波数特性(MAIN DIRECT ON)

AUX、TAPE、TUNER……………10Hz~100kHz±0dB

RIAA偏差(20Hz~20kHz、RIAA)

PHONO MC……………±0.2dB
MM……………±0.2dB

全高調波歪率(20Hz~20kHz)

PHONO MC→REC OUT(10V)……………0.003%
MM→REC OUT(10V)……………0.003%

AUX、TAPE、TUNER→SP OUT
(75W/8Ω、MAIN DIRECT ON)……………0.003%

混変調歪率(MAIN DIRECT ON)

AUX、TAPE、TUNER; 定格出力/8Ω……………0.002%
1W/8Ω……………0.01%

C/N比(IHF Aネットワーク、入力ショート)

PHONO MC……………70dB
MM……………88dB

AUX、TAPE、TUNER(MAIN DIRECT ON)……………110dB
(MAIN DIRECT OFF)……………96dB

入力換算雑音(IHF Aネットワーク)

PHONO MC……………0.03μV
MM……………0.1μV

残留ノイズ(IHF Aネットワーク)

MAIN DIRECT ON……………80μV

チャンネルセパレーション(1kHz、Vol. -30dB、0Ω)

PHONO MC……………70dB
MM……………70dB

AUX、TAPE……………70dB

トーンコントロール可変幅

BASS……………±10dB(125Hz、500Hz)
TREBLE……………±10dB(2.5kHz、8kHz)

リスニングレベルモニター……………0.2W~200W(8Ω)

(スライドVRにより、各設定ポイントの)
ピークレベルでLED点灯

フィルター特性

SUBSONIC FILTER……………15Hz、12dB/oct.

HIGH FILTER……………10kHz、12dB/oct

コンティニューアスラウドネスコントロール

最大補正量(聴感補正カーブによる)……………-20dB(1kHz)

トラッキングエラー……………2dB

スリューレート……………200V/μsec

使用半導体数……………トランジスター; 111
IC; 4
FET; 10
LED; 10
ダイオード; 63

定格電源電圧、周波数……………AC100V、50/60Hz

定格消費電力……………240W

ACアウトレット

SWITCHED……………合計100W max、2個

UNSWITCHED……………200W max、1個

外型寸法(W×H×D)……………435×144×422mm

重量……………12.5kg

付属品……………六角レンチ(1.5φ)、1本

※参考仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りの日本楽器ステレオサービス係宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。 上記接続が確実にされ AC100V が出ていてもONしない。	
INPUT セレクターを切り換えても再生音が全く出ない。	SPEAKERSスイッチが正しくセットされていない。 DISCスイッチがON(点灯)になっている。 入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	DISCスイッチが点灯しているとINPUTセレクターは働きません。(⇒P.7)
左右のスピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全。 BALANCEコントロールがLかRのどちらかにずれている。	日本楽器のサービスネットワークに相談してください。 ピンプラグをしっかりと差し込み直してください。(⇒P.4)
レコード演奏のとき、「ブーン」というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。 プレーヤーのアース線をGND端子に接続していない。	アース線をリヤパネルGND端子に接続してください。(⇒P.4)
業務無線・アマチュア無線等の通信内容、放送が再生音に混入する。	近所に送信所・業務無線局・アマチュア無線局等がある。	電波を発射している所に相談してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が定位置しない。	アンプとスピーカーの位相(+,-)が合っていない。	アンプの位相(+,-)を合わせて接続しなおしてください。(⇒P.4)
レコード再生時、VOLUMEをあげると「ワーン」という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして「ハウリング」をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。
MCカートリッジの音が小さい。	MCカートリッジの出コードをPHONO2/MM端子に接続してある。	PHONO/IMC端子に接続し直してください。
BASS, TREBLE, ターンオーバー切り換えスイッチ、サブソニックおよびハイフィルター、ラウドネスが動かない。	MAIN DIRECTスイッチがON(点灯)になっている。	MAIN DIRECTスイッチがON(点灯)していると左記の各機能は働きません。
録音できない。	REC OUTセレクターがOFF位置になっている。	REC OUTセレクターを録音したいプログラムソースに合わせて切り換えてください。(⇒P.9)
VOLUMEをあげても音量が余り大きくならない。	MUTINGスイッチがON(点灯)になっている。	MUTINGスイッチをOFF(消灯)にして再調整してください。

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器ステレオサービス係へお願い致します。

■ステレオの保証は、保証書によりご購入日から満1カ年です。尚、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。(日本国内のみ有効です。)

■保証期間の1カ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービスネットワーク(ステレオサービス係)宛お問い合わせください。

■サービスをご依頼される前に

使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(前ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただく場合もございますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけしないですみます。)

■日本楽器ステレオサービス係への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご分でお買い上げ店、または最寄りの日本楽器ステレオサービス係へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄ステレオサービス係または日本楽器ステレオサービス係の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)
※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■サービスのお約束

昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所	〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL. 011(512)6111
仙台事業所	〒980	仙台市1番町2丁目6-5 TEL. 0222(23)3101
東京事業所	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL. 03(255)2241
浜松営業所	〒432	浜松市東伊場2丁目14-1 (ヤマハエレクトーン・ステレオ・サービスセンター内) TEL. 0534(56)9211
名古屋事業所	〒460	名古屋市中区栄1-7-33(サカエセンタービル5F) TEL. 052(201)1551
北陸出張所	〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL. 0762(43)6111
大阪事業所	〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL. 06(445)6421
岡山出張所	〒700	岡山市本町6-30(フジビル8F) TEL. 0862(32)3802
四国出張所	〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL. 0878(33)2233
広島営業所	〒731-01	広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL. 08287(4)3787
九州事業所	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2151

■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430	浜松市中沢町10-1 TEL. 0534(65)1111
東京支店	〒104	東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL. 03(572)3111
銀座店	〒104	東京都中央区銀座7-9-14 TEL. 03(572)3131
横浜支店	〒231	横浜市中区本町6-61-1 TEL. 045(212)3111
横浜店	〒220	横浜西区南幸2-15-13 TEL. 045(311)1201
千葉支店	〒280	千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内 TEL. 0472(47)6611
関東支店	〒370	高崎市歌川町8番地/高崎センター内 TEL. 0273(27)3366
大阪支店	〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL. 06(877)5151
心齋橋店	〒542	大阪市南区心齋橋筋2-39 TEL. 06(211)8331
神戸支店	〒651	神戸市中央区浜辺通り6丁目1の36 TEL. 078(232)1111
神戸店	〒650	神戸市中央区元町通2-188 TEL. 078(321)1191
四国支店	〒760	高松市西宝町2丁目6-44 TEL. 0878(33)2233
名古屋支店	〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052(201)5141
北陸支店	〒921	金沢市泉本町7-7 TEL. 0762(43)6111
九州支店	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2151
小倉店	〒802	北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL. 093(531)4331
北海道支店	〒064	札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL. 011(512)6111
仙台支店	〒983	仙台市原町南日薬師堂北2-1 TEL. 0222(95)6111
広島支店	〒730	広島市紙屋町1-1-18 TEL. 0822(48)4511
浜松支店	〒430	浜松市田町32 TEL. 0534(54)4115
浜松店	〒430	浜松市鍛冶町122 TEL. 0534(54)4111

